

各位

石油資源開発株式会社
広報 IR 部
(Tel: 03-6268-7110)

インドネシア・カンゲアン鉱区 TSB ガス田群フェーズ 2 生産開始について

石油資源開発株式会社（JAPEX、以下「当社」）は、当社が参画するインドネシア共和国・カンゲアン鉱区において、TSB ガス田群の一部であるシラスンガス田およびバトゥールガス田（以下「TSB フェーズ 2」）で、3月10日（インドネシア・ジャカルタ現地時間）に天然ガスの生産を開始しました。

当社は、カンゲアン・エナジー・インドネシア社（Kangean Energy Indonesia Ltd.）を通じて(*1)、インドネシア・ジャワ島東部海域で天然ガスを開発生産するカンゲアン鉱区に 2007 年より参画しています。当鉱区内の TSB ガス田群では、2012 年 5 月からテランガス田で天然ガスを生産しており、生産した天然ガスは洋上ガス処理設備（FPU）で処理(*2)した後、天然ガスパイプラインを通じて東ジャワ州スラバヤ市近郊の国営肥料工場や国営電力会社などに供給しています。

TSB ガス田群は、インドネシア・バリ島北方 90km かつ水深 90~230m の海域に位置する、テラン、シラスン、バトゥールの 3 つのガス田からなるガス田群です。「TSB フェーズ 1」として 2012 年に生産を開始したテランガス田に続き、鉱区全体で中長期的な天然ガスの生産量を維持するため、2014 年より「TSB フェーズ 2」としてシラスンおよびバトゥールガス田の開発を進め、このたびの天然ガスの生産開始にいたりました。

シラスンおよびバトゥールガス田では日量最大 500-510 万立方メートル（1.75-1.80 億立方フィート）の天然ガスを生産する予定で、現在生産中のテランガス田とあわせ、現地への天然ガスの安定供給へ引き続き貢献していきます。

当社は、JAPEX グループが保有する石油・天然ガス E&P（探鉱・開発・生産）の知見を活かしてカンゲアン鉱区の開発生産へ貢献するとともに、当鉱区での海洋油ガス田の開発生産経験を当社の他の事業へ生かすことにより、当社の企業価値の最大化を引き続き目指してまいります。

以上

注)

*1: カンゲアン・エナジー・インドネシア社は、当社が 25%出資する持分法適用会社であるエナジー・メガ・プラタマ社（Energy Mega Pratama）の 100%子会社です。

*2: FPU（Floating Production Unit）とは、生産した天然ガスに含まれる水などを除去し、パイプラインを通じて陸上へ送る浮遊式設備のことです。

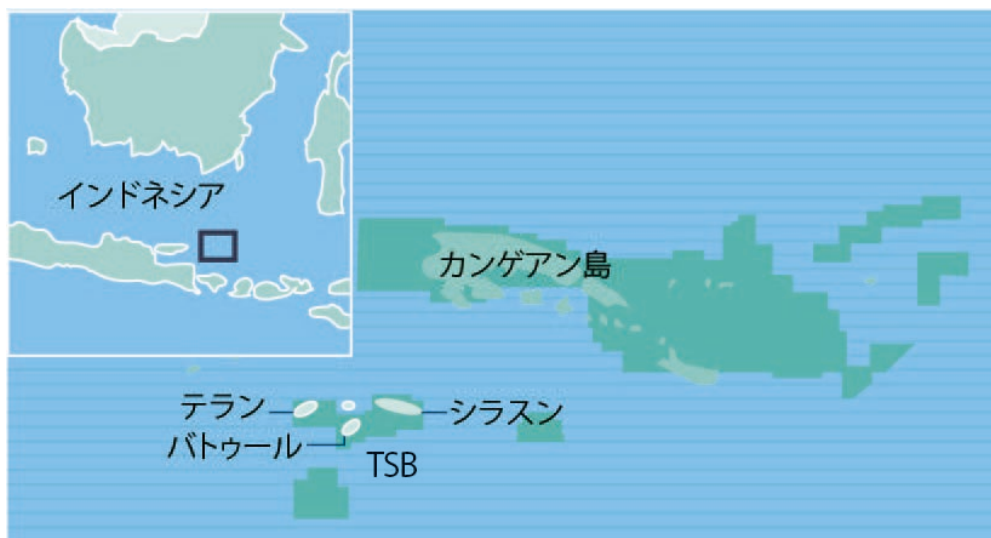
(別紙) カンゲアン鉱区概要

【基本情報】

鉱区名	カンゲアン鉱区 (インドネシア共和国 東ジャワ東部海域)	
権益比率*	Kangean Energy Indonesia Ltd. (オペレーター)	60%
	EMP Exploration(Kangean) Ltd.	40%

* 当社が25%出資する持分法適用現地プロジェクト会社 Energi Mega Pratama Inc.は、当鉱区の権益を保有する Kangean Energy Indonesia Ltd.ならびに EMP Exploration(Kangean) Ltd.それぞれに100%出資しています。

【鉱区概略地図】



【鉱区イメージ写真】



カンゲアン鉱区の洋上処理施設 (FPU)

###